

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2020年4月21日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

新型コロナウイルス災害 深刻 過去最高の相談件数

4月18日 電話無料相談会 札幌 204件・函館 65件



鳴りやまない電話 全国で5000件の相談

新型コロナウイルス感染で、補償のない自粛要請、休校などで困っている人がたくさんいます。18、19日、「いのちとくらしを守るなんでも相談会」が、全国31か所で取り組まれ、18日は札幌と函館でも相談ダイヤルを開設。札幌会場には204件、函館会場には65件、全国で5000件の相談が寄せられました。

生活相談がトップ 収入減の労働者、売上減の中小業者からも

10時の開始直後から鳴り始めた電話相談は、終了時間まで電話が鳴りやみませんでした。「突然雇止めになり、明日から暮らせないので生活保護を利用できないか」「カフェを経営しているが、3月以降お客が来ない。店舗併用住宅となっており、生活費に加え住宅ローン返済のめどが立たない」「タクシーの運転手をしているが、利用客が減少し、3月は手取り収入が3万9千円。子どももいるが、どうやって生活していけばいいのか困

っている」といった切羽詰まった相談が多く寄せられました。

生活保護世帯も支出増 10万円の給付金の問い合わせ相次ぐ

生活保護を利用している方からは、政府が決定した一律10万円支給について、「自分たちは本当にもらえるのか」といった相談が相次いで寄せられました。この間の相次ぐ保護費減額に加え、コロナ対策で休校によって昼食代が嵩むなど新たな出費もあり、生活がいっそう厳しい状況にあることがわかります。

主な相談内訳(複数回答)	
生活費相談	142件
経営相談	28件
労働相談	11件
健康相談	12件
その他相談	13件

「自粛を求めるなら補償を」「マスク配布より医療現場への支援を」

国の対応については、「全く評価しない」「評価しない」半数を占め、「他国に比べて対応が遅い。規模も小さい」「自粛を求めるなら補償を」「利用できる制度の相談先を」「マスク配布より医療現場への支援を」などの要望が出されました。国民のいのちとくらしを守る制度が必要です。

くらしのSOS なんでも電話無料相談

感染問題の相談多数

4月14日、雇用・くらし・SOSネットワークは「くらしのSOS なんでも電話無料相談」を行い、「売り上げが減って事業が継続できない」などの相談が寄せられ、弁護士をはじめ勤医協のソーシャルワーカーなどが相談を受けました。



生活保護利用者 一人10万円の特別定額給付金

収入認定されません (厚労省事務連絡)



生活保護の関わる方々から、10万円の給付金が、収入認定されると、「生活保護費の減額や返還しなければなくなる」と心配の声が出され、国に対して収入認定しないように働きかけが広がっていました。

厚生労働省は、4月21日、自治体に対して「特別定額給付金の趣旨・目的に鑑み、収入として認定しない取り扱い方針であること」ことを連絡しました。